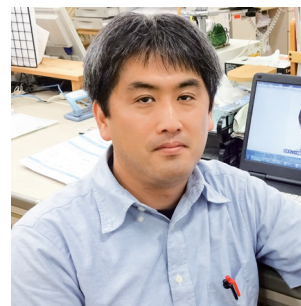


『授業のルーティン』をベースにした遠隔授業

淡路市立津名中学校 右田智治



Q.1

前回の社会研究通信 (Vol.05) で実践を紹介しましたが、どのような反響がありましたか？

A

Vol.05に実践を掲載したところ、日本全国の先生方から多くの反響がありました。なかでも私が作成したサイト『中学校社会科 PowerPoint 学習』（※次頁参照）のアクセス状況を分析してみますと、都市部からのアクセスが特に多く、ICT機器を使う授業方法について、課題意識が高くなってきていると感じています。また、アクセスされた端末はスマートフォンが多いこともわかっており、気軽に学習できるよう今後は改善していく必要がありそうです。その1つの方法として、今回は『授業のルーティン』をベースにした遠隔授業を紹介したいと思います。

社会研究通信
(Vol.05)



Q.2

今回のテーマである『授業のルーティン』をベースにした遠隔授業は、どのように実施したのですか？

A

まず、私の『授業のルーティン』の詳細は、前回のVol.05をご覧ください。その上で『授業のルーティン』をベースにした遠隔授業を2パターン紹介します。

1. 生徒の遠隔授業（生徒が教室内にいない状態）

生徒の遠隔授業は、「学校閉鎖や学級閉鎖のように大多数の生徒がいない場合」や「入院や出席停止によって生徒がいない場合」に実施します。私の授業では、授業スタートから30分間は『授業指示書』を送信して、指示のみで授業を進行させます。その後、授業終了までの20分間では『中学校社会科 PowerPoint 学習』を活用

学校・学級閉鎖時の『授業指示書』

7月11日(月)～13日(水)
2年3組 歴史

①
いつもの手順で、「研究ノート」56・60ページを予習しましょう。

②
いつもの手順で、ノートを書きましょう。ファイルと書くページは、以下の通りです。

【0606鎌倉時代の世界史と元寇】・・・57ページ上
【0607鎌倉幕府の滅亡】・・・57ページ下
【0701建武の新政と南北朝時代】・・・61ページ上
【0702南北朝時代の終わりと室町幕府】・・・61ページ下

③
ノートを書き終わったら、PowerPointファイルを見て学習しましょう。わからない部分や聞きたいことがある場合は、提出箱に質問を書いたシートを提出するか、授業で質問をしてください。

生徒の遠隔授業の流れ



用して、内容説明を行います。現在の内容説明の方法は、事前に『中学校社会科 PowerPoint 学習』を使って自宅学習を行い、授業で改めて説明しています。また、一方通行になりやすい遠隔授業を改善するため、質問シートに質問を提出させ、その返答を行なっています。この質問シートは、対面授業でも実施すると生徒も質問しやすくなり、テスト前には多くの質問を受けています。

質問シートとその返答

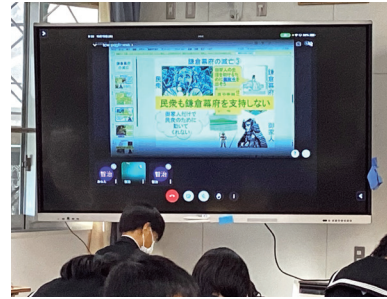
質問
元軍の集団戦法とはなんですか？
また、その時に日本はどういった形で戦ったのですか？

返答
授業中にも話しましたが、元軍の集団戦法は弓矢などを使って一斉に相手を狙っていく戦い方、一方、日本（鎌倉幕府）は1対1の個人戦。そりゃ、元軍が有利ですよ・・・

2. 教師の遠隔授業（担当教師が教室内にいない状態）

教師の遠隔授業は、「教師自身が通院や感染症などにより学校で授業できない場合」や「教師が出張や介護などで学校から離れて遠隔地にいる場合」に実施します。私の場合は事情で県外に出張や帰省することがあり、出先から遠隔授業を行いました。生徒の遠隔授業と同様に、授業スタートから30分間は『授業指示書』を送信して、指示のみで授業を進行させます。授業終了までの20分間で行う内容説明では、『中学校社会科 PowerPoint 学習』を活用したオンデマンド授業を行い、予め撮影しておいた内容説明を教室に映し出して授業をしました。

このオンライン授業を生徒へリサーチすると、「担当教師がいない普段の授業」という意見が多く、授業の流れさえ定着させておけば、教師がその場にいらなくても授業はできることが分かってきました。



中学校社会科
PowerPoint学習



◀ 遠隔授業のようす

Q.3 『授業のルーティン』をベースにした遠隔授業を行うために、必要なことは何ですか？

A まず必要なのは遠隔授業を行うための環境整備ですが、GIGAスクール構想の実施で整いつつあります。次に必要なのが遠隔授業を行うための授業準備で、この準備が不十分であるのが現状です。その授業準備で必要なことは、対面授業と遠隔授業が同じルーティンで行えるよう授業の組み立て方を工夫することだと考えています。そのためには、対面授業でしかできない授業の組み立て方から、遠隔授業にも耐えうるような

対面授業の組み立てに発想を転換する必要があります。先述した私の授業では、対面授業と遠隔授業の基本的な組み立ては同じで、内容説明の手法を変えているだけなので、授業を受ける生徒側も普段の授業として学習しています。このように発想を転換することは、教科の指導法や特性で難しい点でもあり、賛否も分かれていますが、これからの技術発展と世の中のニーズを考えたとき、必要不可欠だと考えています。

Q.4 『授業のルーティン』をベースにした遠隔授業では、どのような効果がありましたか？

A 以下4点の効果があると考えています。

1. 学校閉鎖や学級閉鎖による授業進度の遅れを解消でき、授業時間数の確保につながる

これまでは、遅れた分の授業進度を取り戻すため、生徒の理解度を後回しにすることが多くありました。

しかし、遠隔授業が可能となり、授業進度が一定になることで、生徒の理解度をみながら授業を進めていくことができるようになります。

2. 入院や出席停止の生徒の教育を保障できるようになる

これまでは、入院や出席停止の生徒に対して、十分な教育機会を保障できませんでした。遠隔授業が可能となることで、病院や自宅でも授業が受けられ、教育の保障が容易になります。

3. 教師が授業できない状況下でも、空いた時間で授業をすることが可能になる

教師が授業できない状況は様々なパターンが考えられます。その中で、出張や介護など距離が離れていて物理的に授業ができない場合、時間を調整することができれば、遠隔授業を行うことができます。出張の移動中や介護の合間での授業も可能となります。

4. 「研究ノート」による様々な学習方法が可能になる

秀学社発行の「研究ノート」と一緒に活用することで、『授業のルーティン』を支えるだけでなく、遠隔授業など様々な学習方法も可能となり、生徒の学習の幅が広がります。

■秀学社は中学校の社会科教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、弊社HP「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。



秀学社webサイトからも
ご覧いただけます。

<https://www.shugakusha.co.jp/>